

R5年度（2023）年度 自己評価・学校関係者評価報告書

2024（令和6年）1月26日
学）徳山中央幼稚園

1. 本園の教育目標

望む子ども像：環境に関わり 心を揺らし つつ 自分の心に相談し 表現する子ども
教育目標：対話的人格形成を育む

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

質の高い教育を目指し 地域の子育てセンターとしての役割を果たす

自分づくりの教育課程を改善し続け、年次教育研究計画に基づき実践と分析を継続していくこと
そのための発達理解と自分理解が、指導の質向上につながり保護者への説明の質向上に連なる

3 項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
1	教育実践の質向上のための研究の深化（個から出発する保育）	A	研究主題に基づく研究が、互いの指導の戸惑いを見える化する議論につながり日常の教育活動に反映
2	教育内容（子ども理解と関わり方）を深め的確に伝えられたか	A	写真と文章をセットにした学級新聞やドキュメンテーションの配布や掲示・会話を加え伝え合っている
3	公開保育に取り組み、関係者評価を上げる	A	県内の先生へ案内をし、参加者の評価を意見及び、アンケートでいただき客観的に評価していただいた

評価（A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった）

4. 総合的な評価結果

評価	理由
A	質の高い教育内容を目指し、追求する過程で自園の成果と課題を発見できている

評価（A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった）

5. 今後取り組む課題

	課題	具体的な取り組み方法
1	研究方途の深まり	面白さを追求する環境の構成を、子どもと共に進めていく難しさと面白さを感じ、子どもの遊びを読み取り対話的指導実践に活かす深化が問われる。
2	安全管理	防災訓練のマナー化を防ぎ、取り組みの意味と実際の行動との差異を議論し合い、災害時と訓練時の行動を予測し対策を図り続けること。
3	幼小接続	接続の既存の取り組みを継続し、接続の意味を互いに深めるための教育内容のつなぎを深め、接続カリキュラムの内容を深めること。

6. 学校関係者評価委員会の評価

公開保育への参加を通して、先生方が子ども一人一人の興味関心に目を向け遊びを広げようとしていたことが改めて実感できた。そのことが、子ども達が活き活きと登園できる背景にあるのだと感じた。

他園の保育の内容を、地域で聞くとその違いに驚かされることがあるが幼稚園教育要領に『遊びが学習である』との意味を聞いて、大人の視点で遊びと学習を分けて考えていることへの反省があった。